

帝國作文活法

天野寒英編輯

東京書肆

錦魁堂藏版



080364-000-2

特19-494

帝國作文活法

霞麗散士／編

M39

DAC-4550



帝國作文活法 目次

○新年祝賀の文	三	○同 答	十三	○暑中訪問の文	廿三
○同 答	四	○郊行に人を誘ふ文	十四	○同 答	廿四
○新年宴會人を招く文	四	○芝居見物誘引の文	十五	○果實を贈る文	廿六
○同 答	五	○同 答	十六	○同 答	廿六
○紀元節人を招く文	五	○相撲見物誘引の文	十七	○温泉入浴を誘ふ文	廿七
○同 答	七	○手紙の茶を贈る文	十八	○同 答	廿八
○寒中見舞の文	八	○同 答	十八	○快涼に誘ふ文	廿九
○同 答	九	○祭禮に人を招く文	十九	○同 答	廿九
○親雲人を誘ふ文	十	○同 答	十九	○遊藝に友人を誘ふ文	卅
○同 答	十	○梅雨に人の安否を問ふ文	廿	○同 答	卅一
○孝明天皇祭遠拜を促す文	十	○同 答	廿一	○遊藝會を促す文	卅二
○同 答	十一	○梅雨友人を招く文	廿二	○同 答	卅三
○親老誘引の文	十二	○同 答	廿三	○親に友人を誘ふ文	卅四
				○同 答	卅五

12  
39  
内交

○蓮花を贈る文	卅六	○同 答	五十一	○同 答	六十四
○同 答	卅七	○家督相續を賀す文	五十三	○商品見本進進致乞ふ文	
○觀月誘引の文	卅八	○同 答	五十四		
○同 答	卅九	○嫁入を賀す文	五十四	○同 答	六十五
○離前を贈る文	四十	○同 答	五十五	○爲替金を送る文	六十五
○同 答	四十一	○婚姻を賀す文	五十六	○同 答	六十六
○親戚に文を誘ふ文	四十一	○同 答	五十七	○貸金催促の文	六十七
○同 答	四十二	○出生を賀す文	五十八	○帰朝を報する文	六十七
○同 答	四十三	○同 答	五十九		
○天長節に家を招文	四十三	○同 答	六十		
○同 答	四十四	○壽筵に人を招く文	五十九		
○新嘗祭承拜に誘ふ文	四十五	○同 答	六十		
○同 答	四十六	○病氣見舞の文	六十一		
○忘年會を催す文	四十七	○同 答	六十二		
○同 答	四十八	○死を弔ふ文	六十二		
○歳暮祝ひの文	五十	○法會に人を招く文	六十三		
		○開店を賀す文	六十三		

# 帝國作文活法

霞麗散士編

## ○新年祝賀の文

改革之御慶四海同風日出度申納候先以高堂  
 被為揃御清福御超歳之段慶賀の疊りに奉存  
 候次に弊屋何れも無異加齡羅在候條乍憚候  
 休體是祈候客年中は種々御厚情を蒙り奉謝  
 候尚本年も不相變御庇蔭程恭願候以品乍庶  
 薄年賀之印送進呈仕候餘は永陽の時を期し

## ○發信

書簡書始之

處に用ふる

句

○疎簡致呈○

使簡を以て奉

進す○觀手じ

て座席を修む

○寸楮拜呈○

履書を以て○

控みて此に拜

白す○つ簡肅

呈○片簡浦白  
 ○時下全○楮  
 を裁して奉  
 才○鴻便に因  
 りて奉回す○  
 控みて清楮を  
 係む○控みて  
 啓回を奉す○  
 控んで御膳を  
 呈す

○返信

返書之書始

萬櫻可申遊候謹言

○同 答

新年之奉墨拜浦和春の佳節御同慶奉存候先  
 以御全家益御安康御超歳被遊候趣き天賀墨  
 極よ奉存候隨て拙家無事焉齡を加へ候間此  
 故念被下度候緒新年之御祝儀として何寄之  
 御品頂戴仕難有拜受仕候孰礼不目奉堂萬々  
 御禮可申上候敷と敬具

○新年宴會よ人を招くの文

めに用ふる

句

○安齋拜浦○  
 我に好香を感  
 む○函書の賜  
 を辱けなふす  
 ○遠く珍贖を  
 賜ふ○芳墨拜  
 見○彩端忽ち  
 列る○伏して  
 儀例を承く○  
 玉簡拜浦○

謹啓明七日新年之祝儀として弊堂に於て親  
 戚朋友相會し一盃淡泛へ小宴張開き和氣陽  
 々を迎へ度猶餘興やして伯圖の軍談國朝の  
 落語等相催し候事以御座外間何卒万障御繰  
 合同日午後二時分御來臨之程奉待上候不盡

○同 答

眞齋拜浦候慶明七日は改年之御祝宴會相開  
 きの由に付生に御招状を賜り難有奉謝候  
 尚餘興として軍談落語等も御催しの由定め

敬みて海簡を  
悉く○累伏禮  
々の儀を披露  
す○更に天一  
を蒙むり○忽  
ち琅玕の珮を  
蒙むり○雲臺  
拜見○昨尊教  
を奉ず○瑤瑤  
拜禮○瑤瑤の  
焔を悉く○悉  
雲拜禮○塵中

て御盛會の事と奉存候就ては明日は御指示  
の時刻には必ず参館可仕候先は御答辭迄  
を拜禮

○紀元節友を招く文

明日は紀元之令節に付神祖の御偉業と御宏  
徳を追懐し及び皇室と帝國との天長地久を  
祝するは吾々臣民の本領より有之候間弊堂に  
於て聊か祝意を表する為め小宴相開候間同  
日午後三時より御奮臨被下度奉待候不備

○同 答

度々雲儀を辱  
なふす○尊書  
拜禮○更に瑤  
の天つを榮む  
る

芳墨拜禮如貴命明日は我國紀元之佳節に付  
皇國一般神祖以来の聖恩に沐浴し今日の太  
平を獲らに打過き候は残念や存し居候處貴  
館に於て祝宴御開き被成候音にて拙生を以  
御招き被下難有敬承仕候就ては明日御指定  
之時刻参館可仕餘は拜禮に譲り候拜禮

○寒中見舞之文

拜啓本年は寒氣殊に甚しく一昨日よりは一

○人より送  
附する書状  
の稱呼  
○兼城○雲城  
○愛忠○愛誠  
○敬奉○周回  
○賜教○鯉素

- 五雲 ○来齋
- 佳音 ○翰示
- 惠字 ○漢字
- 示諭 ○惠割
- 芳書 ○垂問
- 手示 ○鳥封
- 雲箋 ○芳墨
- 来教 ○船梅
- 奇蹟 ○燕墨
- 飛城 ○惠回
- 龍機 ○郵雲
- 教帖 ○尊書

層凜烈にして皮膚を犯し骨に徹し實に凌ぎ  
 難き折柄如何被為在候哉は案事申上候此品  
 其輕微ながら寒中御見舞之印迄で進呈仕度  
 候は受納被下候得は幸甚々

○同 答

如尊諭本年の寒氣は例年より異なり極めて凜  
 烈にして強壯の身も随分難堪と奉存候幸々  
 拙生は無異消光器在候間は休神被下度候陳  
 者寒中は見舞申して鶏卵一箱は惠投に預り

- 發墨 ○風翰
- 函雲 ○奇蹟
- 玉翰 ○玉葉
- 芳翰 ○尊翰
- 自分より
- 人へ送附す
- 書簡の綴
- 郵翰 ○手啓
- 嗣音 ○寸毫
- 寸楮 ○斐函
- 短書 ○手紙

難有奉謝候何れ近日参堂御禮可申上候勿々  
 拜具

○観雪よ人を誘ふの文

拜啓昨夜より降雪今晚は遠近の屋上及心樹  
 玉屑堆積し銀世界と一變し最も好風量に  
 御座候斯る好量に一室より閑居致し候ては興  
 味も無之候間午後二時より墨水に船を泛べ  
 眺間に一酌を試み候へば興味可有之と存候  
 貴兄御都合宜しく候得は御同伴如何に御座

- 愚書(天素)
- 昇簡(楓騰)
- 天楮(香祭)
- 愚簡(片書)
- 車篋(手納)
- 陋章(寸篋)
- 手履(天牋)
- 奏冠(柔天)
- 拙書
- 物品を贈
- 遣する時に
- 用ゆる詞

候や洗返事奉待候不備

○同 答

貴翰拜見如貴諭山川銀界と一變し實に好風  
 疊を来し候折柄生じ觀雪を試み度と存居候  
 處幸ひ御誘引を蒙り實に御同感と御座候  
 候は御指示の時刻には必ず参堂可仕候餘は  
 後刻拜眉の期葛藤開陳可致先は不取敢は答  
 まで致し拜具

○孝明天皇祭日友人より遥拜を假是の文

- 呈賀(樓み)
- て百室の欄に
- 献す○登嘉手
- に在り○以て
- 野人の苅に當
- る可きなり○
- 不典を顧みず
- 水仙花を献す
- 瑤肌(珠儀)
- 取番(柳か)
- 一片の茶碗を
- 致す耳○樽儀

寸楮拜呈陳者明日は畏くも 今上天皇陛下  
 の先考なる孝明天皇 祭日なれば已に  
 宮中ふ於て定式の祭典行はせられ候就て  
 は吾々臣民に於ては聊祭意を養ふるは生等  
 の本分と存候因て明日午前十時某神社を遥  
 拜所と相定め候間御同意候はく御来會被  
 下度以段得貴意候致し敬具

○同 答

尊書拜通明日は孝明天皇御祭日付遥拜所等

○敬みて程儀  
を具し○新ら  
く寸丹を達す  
る耳○上脩○  
率觀の備致に  
供す○誦讀を  
蓋す魚尾を呈  
す○乏儀○拜  
容○用ひて寸  
赤を被はす○  
時に拜受す○  
誦らく酒鼓を

具し長途の辛  
を解くを場す  
○裁か表を  
達す○貢資○  
使らに鄙人の  
芥意を將ふ耳  
○後園の二器  
枕懸に献す○  
醜褻の儀○些  
物を取す小自  
を奉す○微儀  
○奉上○つ若

御指定被仰下難有奉謝候貴諭の如く孝明天  
皇は畏くも 今上天皇陛下の御先考なれは  
吾等臣民たる者は是非共察意を表すべき事  
に御座候間何方に於て遠拜可致哉と相考へ  
居り候處幸ひ遠拜所御指定より御示しの時  
刻には必ず参拜可仕候可然御教導被下度奉  
願候敷を敬陳

○觀花友を誘ふの文

頃日来春暖打續き門外に出づれば處として

花ふらざるはなく柳は金を染め春禽は和風  
よ乘して歌ふの好時節と相成候折柄東臺の  
櫻花は已に咲き揃ひ墨纒飛鳥之櫻花も旺盛  
ならんとの趣れ某新聞雜報欄内より相見へ候  
得は此好時期を獲然に過すは如何にも遺憾  
に存候御差支無之候へは平時より東臺を經  
て墨纒より御同行仕度貴意如何に候哉伺ひ上  
候敷を拜具

○同 答



を致し敬んで  
飛尾を呈す○  
種具○蒲みて  
下情を布く○  
寶具○織魚を  
以て水晶の献  
と爲す○敬貢  
○敬みて禮を  
陳す○聊か一  
芥の寸志を表  
す○敬申○謹  
儀を憚はか

らす白萍を供  
す○荒儀○以  
て相贈る耳○  
聊か微忱を寫  
すのみ○伏し  
て乞ふ笑存せ  
ば榮幸多々○  
聊有○謹みて  
謹儀を具 恭  
しく表祝す○  
謹儀の臘儀聊  
か從者を攜す

未諭の如く昨今春暖旺にして柳緑桃紅なる  
は中よ及はず櫻花爛熳華筵を競ふの好時節  
に相成候に付何れに必一枝を試み度と存居  
候處幸ひ御誘引に預り固より希望する所に  
御座候間他事を擲ち御指示の時刻に参堂可  
仕候敷を拜復

○郊行に人を誘ふ文

陳ば頃日来連日晴天よて春意野に満ち郊外  
散策に最極適當の時期と存し候御人の鑿

悶を排除するは春風彩煙の間に吟歩し春禽  
の和鳴を聴くが最良養と存し候間明日は閑  
暇小有之候へは某邊へ散步致し度御都合如  
何に決坐候哉乍御筆勞御返事を煩し度候不  
具

○芝居見物誘引の文

寸翰肅呈陳は頃日新聞紙上より高評を博した  
る川上座之演劇興行中にて已に其演劇の仕  
組は凡て從來の狂言と異なり何れも新技よ

○薦来○拜し  
て之を受く

◎安否訪問  
の詞

○益御安寧○

益御機嫌○

稱御壯健○稱

御堅固○稱御

壯健○稱御多

福○稱御健榮

○傍御機嫌○

○稱御清福○

益御安泰○稱

御堅固○稱御

清福○稱御清

榮○益御清全

○益御健寧○

益御勇健○稱

御萬福○稱御

健勝○稱御清

榮○稱御無事

○稱御安健○

稱御平安○御

無事之段○益

て目今は日清韓戦争の活劇開場候由より御座候間是非近日の内一見致度と存候貴兒御都合如何と御座候哉別段御差支無之候得はは同伴致し度候多々不敬

○同 答

芳墨拜滄陳は本月初旬より其新聞紙上より高緯を得し川上座の演劇一覽之為は誘引被下難有奉齎候生は豫て御承知之通り演劇は好む所殊に川上座の日清戦争の演劇を

ば猶更の事に御座候時日御報知次第御供可仕候書外拜眉ふ譲り候多々拜陳

○相撲見物誘引文

拜啓然れば本月初旬より其處より於て相撲興行有之候由より殊に今日は大關の組替且何の程必横綱との事聞及び候随分珍らしく一興可有之と存候間明日別段御差障り無之候得ば平前七時より御同伴仕度御都合如何と御座候哉使の者へ添否共仰下さり度候不備

御安壽○彌御  
安全

○宛名の類

呼

○雅君○先生

○尊契○儒宗

○支契○大禮

○越○雅兄○英

人○尊大人○

秀彦○大國器

○大禪師○尊

契○大國手○

○手製の茶を贈る文

陳者例年之通り自園に於て焙養致候鹿茶當  
年不相換摘取り手製仕候間並て不味は  
候得共貴覽より入札申候御笑味被下候得は幸  
甚々

○同 答

尊書拜讀陳は燕々御丹精を被為込候貴園之  
銘茶御自製之趣より御惠投被下難有早速配  
味致候處字治産より一層相優り候品質と存

し候實小製法御熟練之段奉感佩候餘は拜眉  
之際尚御禮可申上候敬具

○祭禮小人を招く文

拜望明日は當町鎮守神之祭禮より有之本年は  
大祭之期にて雅樂等を奏し又は烟花之行揚  
げ可有之例年よりは一際賑盛小候間明日平  
前十一時より御子息様方御召連御光来被下  
度恭待候頓首

○同 答

山君○大神醫  
○仁兄○文契  
○大妻史○雅  
契○大名家○  
大徳門○先嗣  
○大文宗○賢  
契○大化工○  
大人○後士○  
夫子老大人○  
時哲○雅文○  
大和尚○長兄  
○俊兄○大仁

名

- ◎人の位府
- の地種
- ◎尊地◎貴府
- ◎花縣◎其御
- 地◎御里◎貴
- 地◎貴方◎貴
- 縣◎貴町◎貴
- 村◎御郷◎貴
- 郷◎御府◎御
- 國方◎御郡◎
- 貴郡◎御郷◎

奉翰拜讀陳は明日は尊地鎮守祭ふて殊よ今  
 年は御大祭ふて奏樂且つ餘興として烟花之  
 儀し有之候赴き豚兎共召連参上可仕様御寵  
 招に預り難有奉謝候仍て御速意ながら愚子  
 共召連御示し時刻に参上仕候間決て御構ひ  
 無之様奉願候拜復

○梅雨に人の安否を尋ぬる文

昇翰拜呈陳は黄梅之時節とは申しながら連  
 日之降雨にて貴小齋を敷貴兎には如何御起

◎我位府の地種

- ◎密地◎味邦
- ◎古郷◎國元
- ◎私村◎常城
- ◎此地◎下里
- ◎古里◎舊里
- ◎賤里◎此方
- ◎郷國◎片田
- ◎余◎私存府
- ◎御郷◎御里
- ◎常表◎故郷

居被成候哉生義意外之御無音多罪奉謝候扱  
 此品懇意の者より到来候に付輕少ながら御  
 齋屋の御慰安よ逸貴覽小入申候御笑納被下  
 候へは幸甚々

○同 答

至聖拜讀然れむ熟梅の時節連日の雨天にて  
 齋屋に堪へむ後然に罷在候處御尋に預り殊  
 に何寄の銘酒御贈り被下難有早速家内打揃  
 ひ風味鼓候處特殊なる銘酒よて一滴味ひ候

此邊○敵郷○  
遠鄙○當邊○  
實郷○此里○  
此表○

○人の親戚

の稱呼

○御資族○御  
分家○御血統  
○御本家○御  
血筋○御實家  
○御親族○御  
末家○御盛宗

へは精神爽快を覺に乍ち積日之鬱悶散志  
申候何れ近日参堂万謝可仕候先は御禮旁貴  
答迄勿々拜答

○梅雨小友人を招く文

梅熟之時節とは云へ連日の霖雨よて鬱陶敷  
貴兄に已定めて御困却の事と奉存候如何  
起居被為在候哉却脱本日朋友三四輩を拙宅  
小會し書畫吟咏を催し連日之鬱悶を散し度  
貴君より別段御障りも無之候得は御光臨被

下度恭待上候敬具

○同 答

芳墨拜閱貴諭之如く黄梅の時節毎日之降雨  
にて鬱陶敷後然に一室に閑居羅在候處幸ひ  
此雅意に推参可致様御招き小預り難有奉敬  
承候就而は生を拙界を以願ふ貴命も後ひ  
早速拜趨高席を汚すべく候拜復

○暑中訪問之文

一書齋呈酷暑之候高堂益御多祥奉賀候次に

○御別家○御  
一族○藍統○  
御一家○尊杖  
○御連杖○御  
家柄○御縁引  
○兼買○御間  
柄○尊宗○御  
分舖○貴属  
○自分の親  
戚の稱呼  
○家族○私一  
家○親戚○私

親族○智者○私親屬○私親戚○續之者○縁者○因類○職族○冷裔○属類○微族○卑族○職累○人の父母の稱呼○尊大人○御慈母○御賢父○御翁○御賢

弊屋何れも無異消光羅在候乍憚候休神是祈候却流以兩三日以来暑熱甚しく實に難堪へ共貴兒も者御障り無之候哉別瓶は小生懇意之者製造致候らむ聊かながら暑中見舞之印送進呈仕候は笑納被下候へは幸甚下御座候尚時下折角は自愛專要も奉存候敷と拜具

○同 答

芳翰拜浦貴諭之如々頃日来炎暑酷甚實に難

父○御父上○御母公○尊老○令尊○御尊父○御老母○耶伯○御親父○令堂○母公○御親公○北堂○令母○令椿○廻堂○尊母○歳君○壽母令府○監室○老大人○聖

凌折柄高堂愈々被為揃は清適之段奉賀候隨て拙宅無事羅在候間は赦念被下度候扱以程は慙々暑中御見舞と志て何寄之佳品御惠投被下難有拜受仕候早速玩味致し候近來稀なる上製よて炎威を排除致し候よは最良品と覺へ申候幸ひ製氷會社より氷塊到來に任せ乍輕少貴价に託し進呈仕候間は笑味被下度候尚酷熱之折柄御攝養專一も奉存上候餘は拜趨万謝可仕候敷と敬復

善令府

○自分の父

母の稱呼

○家藏○老父

○家慈○老母

○先人○歳父

○愚母○母氏

○拙父○家長

○家母○流母

○愚父○親父

○母親○母儀

○家翁○親事

○果實を贈る文

時下愈々御清福恭賀候隙は弊屋後園の林檎  
此程漸々相熟し候間是々良味に無之候へど  
も例年之通壹籠呈上候間は笑納被下候得は  
幸甚之量に座候万一貴意に適ひ候はと被  
仰下次第何時にても差上可申候間玆段御了  
承被下度候方と敬白

○同 答

奉翰拜讀然れば貴家御庭園に成熟之林檎澤

○私母○阿母

○先子○家大

人○慈母○家

尊○愛母○母

君○親とも

○人の家の

稱呼

○資館○高窓

○慶門○資門

○御住居○資

宅○資亭○資

邸○資屋○資

○某温泉に入浴後ひ之文

山御惠與被下難有奉謝候實は見事にて老母  
始め小児輩早速御嘗味仕候處實は甘味にて  
大悦びにて頂戴仕候當外拜顔之節は厚禮可  
申上候拜具

一簡拜呈仕候隙は當春以来御同様は商業繁  
劇小御座候處最早暑中より是より稍々商業も劇  
賑に相成且本年は例年より異り暑氣酷烈にて  
難堪加之流行病も相萌し候間避暑保養之為

- 家○尊宅○尊
- 堂○佳屋○御
- 家○門牆○高
- 屋○尊家○御
- 住府○門庭○
- 御座府○高居
- 貴店○門圃
- 郡門○高濶
- 尊邸○高亭
- 高門○御店
- 御宅
- ◎他家ノ稱

ぬ磯部温泉へ大凡三週間も入浴せしめて羅越  
 し度候貴兒は如何哉御同意に有之候得は其  
 昔は回答被下度奉待上候不<sup>一</sup>

○同 答

華墨拜見陳は両三日爾来炎暑燉くが如く苦  
 惱羅在如何と難堪候處避暑寄某處へ入浴  
 之儀御企に生も御同行可仕様は誘引に預  
 り雖有奉謝候某處温泉は是迄小生一回も入  
 浴不仕候事故誠は幸ひ之事も御座候某處は

- 私宅○白屋
- 郵家○野店
- 當家○拙家
- 私方○蓬戸
- 鄙宅○曲廬
- 拙宅○拙方
- 狭屋○當店
- 私邸○陋室
- 賜舍○寒舍
- 狹宅○矮屋
- ◎人の子の

天然之風量も富み且つ空氣も殊に清涼に  
 人身も自効有之候由も付御同伴可仕候何  
 れ明朝参堂諸事可相伺候早々拜答

○納涼を誘ふ之文

拜陳昨夜来殊に暑氣最強く實は凌き難く候  
 就ては今宵は一天殊之外快晴も可有之且つ  
 月明之折柄なれば某樓も登り酔を買ふ旁清  
 涼を領し晝間之炎蒸を一洗致し度候貴兒に  
 は如何哉御同意に有之候得は御一報被下度



稱呼

- 秀子 ○不凡
- 神童 ○愛郎
- 賢子 ○枝子
- 那君 ○駒見
- 賢那 ○令嗣
- 俊子 ○秀才
- 主器 ○令子
- 聖俊 ○御賢
- 忠 ○兼賢 ○好
- 那 ○風見 ○忠
- 子 ○令那 ○龍

恭待候友に敬具

○同 答

尊書拜讀如貴諭炎暑よと昨今難凌折柄晩曇より納涼を試み度存居候處幸ひ御誘引を蒙り御深情之程難有恭謝候某櫻は其川小臨み居候得は定て今夕は千金之涼味領收可也軍と恭待候何れ後刻参堂御同伴相願候友に拜具

○螢狩よ友人を誘ふ文

子 ○蘭玉 ○惟  
賢 ○賢胤  
○我子の稱

- 家児 ○養息
- 愚息 ○殿息
- 同苗 ○小頑
- 忠男 ○癡子
- 豚息 ○痴児
- 愚子 ○拙子
- 拙嗣 ○頑子
- 嫡子 ○頑息

拜啓陳は昨今暑氣烈しく候間本日晩涼も乘じ某河岸へ螢狩として散步致し度就ては貴兒如何に候哉は同意小候はと御同行仕度候某新聞之條より由れば某河岸之螢は夜氣より到り万點之星光降下と覺しき由に付出陣せば一興可有之候間前文之段添否共御回答を煩はし度候不盡

○同 答

貴翰拜讀陳は如貴諭昨今暑氣最強して難

- 蒙子○愚兒
- 愚童○豚兒
- 時
- 人の兄弟
- の稱呼
- 兄君○玄兄
- 先兄○大弟
- 叔弟○兄貴
- 賢弟○家兄
- 尊弟○貴兄
- 貴弟○舍弟
- 令兄○令弟

凌存居候處何計らん本日夕景より某河岸へ  
 螢狩御誘引被下御芳情之段難有存候某河岸  
 之螢は最有名にして遠くより之を臨む時は  
 萬點之星光を以て欄を架するが如く奇觀と  
 の風評に有之候間御同伴は曇よりの希望に  
 御座候間午後六時頃より参館可仕候餘は拜  
 眉萬謝可申述候勿々拜復

○初秋講義會を友人に假すの文

拜啓高堂益御多禱恭賀候陳は頃日来炎威漸

- 阿兄○尊兄
- 令仲○弟公
- 大弟○伯兄
- 次公○長兄
- 貴介○長公
- 元芳○叔兄
- 華兄○仲弟
- 實弟○伯公
- 實兄
- 我兄弟の稱呼
- 嫡兄○伯氏

く相減じ朝夕は新涼を覺へ精神爽然として  
 實に好時候に相成申候先月中は炎熱に苦み  
 居り候萬事を擲ち凌暑にのみ苦心羅在候へ  
 どを自今は前書之良季候に到り候に付進  
 む修學勉勵之時機到來候間彼之講義會相  
 始候就ては如何哉貴兄御同感に此座候へは  
 御一報被下度候早々不盡

○同 答

寸楮拜呈如貴諭以頃は稍暑氣を減し秋涼相

- 仲嫡○私弟
- 孫兄○叔弟
- 鄰弟○我兄
- 宗兄○昆兄
- 金弟○金兄
- 愚弟○野弟
- 家弟○長公
- 慈弟○少弟
- 阿叔○兄弟
- 長兄○堂兄
- 拙弟○家兄
- 阿仲○劣弟

儂候尊堂愈は清福奉成賀候隨而弊屋無事に  
 有之候間は休神是祈候扱被仰越候通り殊頃  
 は朝夕は新涼を覺へ殊に夜分は全く炎威は  
 脱却し冷氣より相成申候就ては彼の講義會開  
 始之義最も御同感に候間何日よりふて可宜  
 敷候間御指示之程奉希望候取立拜具

○觀蓮より友人を誘ふ之文

澄啓陳は此之両之日は殘暑未だ相去無候得  
 共漸新涼を催し候華堂彌御多釋慶賀之是り

- 家弟○堂弟
- 昆弟○御氏
- 仲氏○愚弟
- 人の子女
- 姉妹の稱呼
- 令嬢○貴姉
- 貴妹○愛赤
- 賢姉○賢妹
- 尊嬢○伯姉
- 女弟○令愛
- 御娘○御嬢
- 尊姉○令妹

江候扱四五日以前より其池之蓮花紅白満開  
 殊に同所は墨にて幽靜の函新聞紙雜報欄内に  
 以承知致し候就而は明日は幸ひ日曜日より有  
 之候間午後一時より散步旁同池之荷花一覽  
 致し度候間貴君御差支も無之候へば御同遊  
 仕度右様否共御回答被下度奉願候頓首

○同 答

華翰拜誦陳は如仰新涼相催し昨今は大に凌  
 越く相成申候却況頃日来は其池の蓮花満開

- 女兄○愛娘
- 室女○伴姉
- 尊妹○園愛
- 尊媛○令女
- 令姉○少妹
- 愛玉○令嬢
- 翁娘○愛女
- 娘嬰○阿嬢
- 娘子○大嬢
- 弄子
- 自分の子
- 女姉妹の稱

之由如何に其新聞雜報に相見へ中候某  
池の蓮花一覽は小生兼より希望に有之候間  
萬障を擲ち是非御同行仕度候御指示之時刻  
迄は參堂可仕候餘は拜眉之期に讓り候敷を  
拜答

○蓮花を贈る之文

昨今は炎威も大に減却し凌ぎ能く相成申候  
叔嬢屋庭池の蓮花兩三日前より開き始め候  
に付紅白取り交せ御慰み之一助とて為持上

- 麗女○賊愛
- 女子等○阿
- 愚娘○娘
- 愚妹○拙愛
- 家姉○少妹
- 虎子○阿女
- 阿妹○姉姉
- 少女○賊娘
- 妹儀○愚姉
- 姉儀○女子
- 愚女○幼女

け候間御笑納被下候へは本懐之量りに御座  
候敷を敬具

○同 答

尊書拜讀陳は如來偷以頃は秋氣相催し候御  
渾家御無事慶賀之量りに御座候叔只今御庭  
池之蓮花態々御贈り被下難有奉拜受候誠以  
見事と咲き揃ひ早速花瓶へ挿み相眺め一層  
賞弄羅在候老母を宜しく御禮申上候様申付  
候何れ不目參堂萬謝可仕候先は不取敢御禮

送交を拜復

○親月より友人致送ふ之文

- 御愛○家妹
- 妹婦○愚愛
- 人の妻の
- 稱呼
- 今正○令室
- 内方○奥様
- 内室○尊妻
- 細君○内政
- 奥方○令政
- 令国○内君
- 尊君○悠室
- 尊国

謹啓此一兩日前より今秋相催し候賢兄愈御清適奉賀候却説今宵は仲秋に相當り中天一點之雲翳をなく月輪皎々近年になき良夜に可有之と存候就而は今夕某江某樓に於て月明之昇るを迎へ吟咏を試み且つ小宴を相催し度候に付己に両三輩は約束相整ひ居候間貴兄は如何哉御同意に候へは午後六時頃

○我妻の稱呼

- 御妻○愚妻
- 裾布○修房
- 中饋○樞家
- 山妻○愚室
- 野婦○賤室
- 小妻○家菊
- 房下○国姥
- 拙妻○家妻
- 妾の稱呼
- 嬖室○盛寵

とり御同行仕度候勿々不具

○同 答

華墨拜誦如来諭昨今者秋氣相増し候貴君益御清福慶賀の墨に御座候隙は今宵は仲秋小相當り候處幸ひ一天晴渡り真に良夜なるは必然の事に御座候就ては今夜某江某樓に於て月明を迎へ吟咏を親月の宴を張られ候に付小生を以御誘引此段難有生業よりの希望小御座候某樓は最も眺望も宜しく候事ゆへ

- 愛室○野愛
- 寵妾○鄙妾
- 貴婦○愛女
- 愚妾○愛房
- 人の孫の
- 御孫○令孫
- 鳳孫○賢孫
- 華孫○孫子
- 龍孫○龍孫
- 嫡孫○正孫
- 天孫

觀月には履竟の候置と存候定めて雅意諸君  
 御高咏を拜する出とを得べしと樂し居り  
 候何れ年後參堂拜眉の際尚可申述候敷を拜  
 答

○雜菊を贈るの文

寸楮拜呈陳者弊家小庭の雜菊昨令黃白漸く  
 咲揃ひ候儘両三種取交へ折り取り机邊に呈  
 上仕度為持上げ候間御笑留被下候へは幸甚  
 の墨りに御座候不宜

○同 答

- 自今の孫
- の稱呼
- 孫儀○愚孫
- 拙孫○駭孫
- 孫共○孫児
- 小孫○孫方
- 孫娘○孫女
- 外舅の稱呼
- 岳父○御舅
- 姨夫○外舅
- 令外舅○令

貴書拜讀逐日秋冷相増し華堂愈御多禱恭欣  
 賀候扱小子事此頃は何故乎自ら氣鬱し一室  
 へ閑居羅在候折柄斗らむも貴園の菊花此程  
 咲揃候由にて數種御惠投被下雖有奉謝候早  
 速花瓶に挿し賞玩可仕候何れ不日參堂萬謝  
 可仕候右者不取敢御禮迄敷を拜答

○觀楓に友を誘ふの文

拜啓逐日秋冷相増候處萬堂愈御清適恭賀候

好珍 ○宅相

○人の婚の

稱呼

○貞床 ○令婚

○玉潤 ○婿家

○佳婦

○自分の婚

の稱呼

○半子 ○裁律

○小婿 ○子婿

○女夫

○夫の稱呼

陳は頃日は某處楓葉は十分紅を染め錦綺  
を織り出し眺望最も絶佳の趣き某新聞名所  
に付同地へ御同行致し實地現風致を占領致  
し度候貴兒は如何哉御同意に候はと其音御  
報奉待候多々敬白

○同 答

華墨拜見仰の如く秋氣相増し近頃は天に凌  
き能く相成り申候仰に由れば此頃は某處の

○良人 ○良夫

○夫君 ○家夫

○尊夫 ○卿々

○尊夫 ○令夫

主 ○僕 ○我夫

○人の子婿

の稱呼

○嫁御 ○令子

○新嫁娘 ○令

器 ○賢家婦 ○

令婦 ○嫁子

○姑の稱呼

楓林紅を染め錦綺を織り出せるが如くの由に  
付明日同地へ御杖曳現風致を領取被致候に  
付て生へは同行可致被仰越難有奉謝候某處  
觀楓は生蒸よりの所望より有之候間萬障御ち  
は同伴可仕候餘は何れ明日拜趨之期より譲り  
候致を拜答

○天長節祝宴に客を招く之文

一嘗爾呈仕候華堂益御多祥慶賀之疊りに御  
座候陳者本日 今上天皇は誕辰に付畏く

- 令姑 ○伯姑
- 叔姑 ○叔母
- 伯母
- 叔父の稱
- 仲父 ○阿太
- 中郎 ○叔父 ○季父 ○世父 ○伯父
- 自分の稱
- 不佞 ○謙劣

己吾々國民之尤も祝賀すべき事に御座候間  
 年後一時より數輩某處に相會し祝宴を開き  
 聖世の民たる之本分を盡し度貴君格別之御  
 障りも無之候へばは奮臨之程恭待候早に敬  
 具

○同 答

芳翰拜見音諭之如く今日天長節即ち今  
 上天皇御誕辰よて皇國一般之佳節小有之吾  
 人共慶賀すべき事も奉存候就ては賢兒に生

- 私儀 ○愚劣
- 眷弟 ○陋生
- 小人 ○鄙生
- 愚老 ○臆生
- 狂生 ○露生
- 臆愚 ○不肖
- 愚生 ○拙弟
- 拙夫 ○愚弟
- 野人 ○我輩
- 我等 ○愚拙
- 拙子 ○下拙
- 私方 ○私共

某處に於て祝宴御催しに付生を御招待を  
 蒙り雖有奉深謝候因て御指示之時刻には拜  
 過貴席は陪し聊か祝意を表し度候小生希望  
 には座候餘小拜眉之期に瀧り候勿々拜答

○新嘗祭日某神社参拜を誘ふ之文

一簡呈上仕候華堂愈御清適奉賀上候隨而弊  
 家無異羅在候條憚ながら御放念被下度候陳  
 者本日新嘗祭にて 畏くも天皇陛下は親  
 ら祭典を舉行被遊新收穀の豊饒なるを為祝



○小生○拙生

○野子○我輩

○我輩○我輩

○吾入○僕

○耆老の終

りに用ゆる

詞

○不宜敬白○

不宜頓首○誠

恕謹言○不宜

謹言○不具謹

言○不具頓首

給ふ佳節に有之候に付吾々臣民なる聖意を  
奉体し國家豊富を祝する之意を表する為め  
其神社へ参拜し其之歸遠近郊を散策し村家  
農夫觀樂之景況を實見して其よく同慶を  
表し度折柄賢臺にも格別之御差支無之候へ  
ば御同伴仕度御回答を待つ勿々拜具

○同 答

奉翰拜誦貴諭之如く本日は新嘗祭日にて皇  
國一般豊富之大祭日共此慶賀す可き嘉辰に

○不具敬白○

不備敬白○誠

恕謹言○恕慎

謹言○恕慎頓

首○恕慎敬白

○恕々敬白

○敬白○頓首

○不宜○不乙

○不備○不具

○不整○不乙

○不悉○不盡

○不既○不一

御座候因て小生も聊か應分之祝意を表し度  
存居候慶幸ひも其神社へ参拜し其歸遠郊外  
に散步之御寵誘を蒙り難有奉深謝候以祝意  
を表するは小生盡より之希望に御座候間貴  
命に從ひ何れ後刻参堂御同伴可相願候先者  
御回答逸勿々拜復

○忘年会を催す之文

寸楮拜呈高堂愈御多祥慶賀之墨に御座候次  
小弊屋何れも無異消光羅在候條御休神是祈

○不密 ○不敬  
○敬具 ○勿々

頭首  
物品名稱數

○文具類

○筆 一筒 ○

墨 一拵 ○ 硯

一函 ○ 硯匣

合 ○ 筆架

架 ○ 文鎮

○ 札 一脚 ○

依 一帖 ○ 書

候扱本年も月道に相成實に先陰敷を將り過  
き去らんとせし折柄なれば貴家にては嘸も  
御繁用之御事と奉推察候然る處吾人生活之  
為め費したる一年の日子を後らに捨て置く  
も本懐にも無之候因て明日午後二時より同  
志相集り某樓に於て忘念會相催し度候間何  
卒貴兄も是奮臨被成下度但し會費之儀者極  
めて節約致し若干金と相定候御了承被成置  
度候早々拜具

○同 答

状 一函 ○ 硯  
依 一脚 ○  
賜 一巻 ○ 筆  
賜 一幅 ○ 書  
籍 一巻  
○ 扇 一本 ○  
手拭 一條 ○  
服紗 一條 ○  
櫛 一枚 ○ 髪  
櫛 一本 ○ 印

貴翰拜讀貴諭之如て本年も最早餘日無之歳  
月早々相迫候折柄高堂益御清福御繁忙之御  
事と奉深察候陳れば例年之通り同志忘年會  
之御催し之旨より生へも態々御通知を蒙り  
御周旋之段奉深謝候談會催之業者小生固より  
り希望之事に候得は何卒御加名被下度何れ  
明日は指定の時刻より某樓に出席可仕候餘  
は會場拜眉の期に譲り候敷々拜答

- 籠 ○巾着 ○
- 猪ト ○根着 ○
- 一具
- 帛服類
- 御衣 一領
- 御衣 一具
- 絶 一領
- 帯 一條 ○小
- 袖 一枚 ○袷
- 單物 ○帷子
- 袴 一對 ○袴
- 衣 一領 ○足

○歳暮祝ひの文

一簡呈上華堂益御清榮奉賀候隨而弊家無異  
 消光候間御休念被下度候扱本年中愈歳抄の  
 期に迫り最早餘日も無之候間囃々御多用の  
 儀と恭深察候然し不相換御健全にて新年を  
 被為迎候義と奉祝賀候小生義一寸歳末の御  
 祝賀として参堂仕度候得共兼て御承知の通  
 り事業繁劇にて寸時も手放し難く隨て内外  
 の用務難免れが為め歳末の祝賀延引に及候

- 袋 一雙 ○袋
- 湯 一盃 ○湯
- 袖布 一端 ○
- 襪紗 一間 ○
- 綿 ○紐 一條
- 家具類
- 算筒 一架
- 長持 一棟
- 衣桁 一架
- 長櫃 一合
- 御厨子 一

此段不悪御量察恭願上候扱本年中は種々御  
 厚情を蒙り難有恭深謝候尚明年も不相變は  
 愛顧の程恭願候此品甚粗薄よりは候得共玉佐  
 高知市知巴より取寄物候儘聊ながら歳暮祝  
 儀の印送に進呈仕候間御笑納被下候はと幸  
 甚に御座候餘は何れ来陽拜趨万賀可中陳候  
 勿々敬具

○同 答

芳翰拜見来諭の如く歳月瞬移し忽ち抄末の

- 手拭掛
- 一飾○屏風
- 一雙○鏡
- 張○凡帳
- 窓○重帷
- 提○食籠
- 其○折
- 杯○杯盤
- 杯
- 手器
- 切去
- 衝立
- 銀子
- 枕
- 茶

期に相迫り最早本年も餘日無之候間貴兒御  
 事業上は繁劇の趣き實に奉察入候生義は平  
 常懶惰の性質緒事故擲致し置候故目今も疊  
 り内外の用事務雜致居候折柄未だ最末の祝  
 儀不申上に却て歳末の祝儀として鯉魚節一  
 箱御惠贈被下殊に玉佐産にて一層好風味に  
 可有之厚く御禮申上候何れ當方よりも歳末  
 祝儀可申上候得共多忙中ゆへ不取敢は答禮  
 迄申渡候早々拜答

- 碗○四砂鉢
- 一口○椀
- 樽○壺
- 樽○花瓶
- 一壺○菓子
- 一飾○風爐
- 一居○烟斗盆
- 一面○砧
- 一枚○鏡
- 一面
- 魚介類
- 鯉
- 鯛
- 一枚
- 一枚

○雜部

○家督相續を賀する文

鄙簡拜呈陳れば今般貴殿御家督を御令息某  
 様へ御譲りの由奉欣賀候御令息様は某學小  
 博く殊に高才の名衆人の知る所なれば向後  
 尚御家門御盛榮の事と奉慶察候生義早速祝  
 賀として拜過可仕筈に候へ共職勢上繁劇に  
 有之候間乍失敬書中を以て御祝儀申上候別  
 籠の鯉魚乍輕少は祝儀之印迄に呈上仕候御



- 村白むらしろ○紫霞むらさか
- 夜黄よわう○嬌碧けうへき
- 風清かぜせい○盪春うたはる
- 麴生くわせい○黄醴わうり
- 綠雲りよくん○舜泉しゆんせん
- 紅波こうは○聖饅せいまう
- 耶官やくわん○官燭くわんそく
- 魯雲ろくわん○香醇かうじゆん
- 裕膠ゆうかう○竹膠ちやくかう
- 濁賢だくけん○聖儲せいじゆ
- 香味かうみ○掃愁さうしゆ
- 糖水かうすい○苦嬌くけう

御添心の程奉仰候先は不取敢御禮迄如狀御座候敷を拜答

○婚姻を賀するの文

一書拜呈然れば今般御令息様御良縁御整ひ被成愈今晚御婚儀御執行の由千秋萬歳幾久志敷は祝儀中上候就而は御双親様嚙々御喜悅の由事と奉存候鯛魚一臺乍菲薄御祝儀の印迄に進呈仕候御收納被下候はと望外の幸福は座候尚不日参館祝賀可申上候早々拜

- 茶ちや
- 雲芽うんが○龍團りゆうだん
- 龍倍りゆうばい○鳳團ほうだん
- 解眼かいがん○金芽きんが
- 綠花りよくわ○雲膜うんめく
- 玄壁げんき○銀票ぎんひょう
- 風髓ふうずい○鷹爪とうそう
- 若花わがわ○芳媒ほうばい
- 醒媒せいばい○霞芽せまが
- 華芽くわが○鳳尾ほうび
- 清倍せいばい○黄芽わうが
- 薰芽くわんが○甘倍かんばい

具

○同 答

尊翰拜涌然者今般愚息新婚之儀従来別懸たる某の媒酌にて縁組相整ひ候得共時節柄總て質素を旨とし節約致し候儘別段は通知も不申上候處他々御承知に相成御祝儀として何寄の鮮魚御惠贈被成下難有奉万謝候就而若野婦将来に懇親願度候附鹿酒一盞献し度候間明日午後三時頃より御来車被成下度奉

- 恭碧
- ◎ 香
- 薰柏
- 螺甲
- 燒柏
- 鏡片
- 返魂
- 百和
- 薰陸
- 龍涎
- 鷓鴣
- 豈益
- 耳
- 百鍊
- 海木
- 楓字耳
- 拍子
- 鷄舌
- 地樓
- 鷓鴣
- 篆字
- 薰香

待候先者御禮旁中上度勿々拜復

○ 出産を賀する文

一書拜暨仕候昨夜は御全園様法安産被成殊  
 に御男子之由は全家御喜悅之事と奉慶察候  
 就ては此品甚粗末に候得共御祝ひの印迄に  
 進上仕候御受納被下候は、幸甚の墨りに候  
 座候猶目下不順の候も候へ者御兩人様御攝  
 養專要に奉存候餘は不日拜遡可申上候勿々  
 不盡

- 硯
- 墨淵
- 紫石
- 墨洞
- 紫潭
- 玉池
- 龍池
- 瑞侯
- 碧池
- 龜首
- 研鶴
- 綠池
- 金曾
- 筆
- 玄芝
- 霜毫
- 紫翰
- 管城
- 鼠鬣
- 雞毛
- 羊頭
- 額兔

○ 同 答

貴墨拜瀆仕以愚妻分婉候に付誠ニ御調法之  
 品御祝被下難有奉謝候幸母子共肥彗候間乍  
 憚は放念被下度候參館御禮可申遠處不取敢  
 以寸楮奉鳴謝候拜首

○ 壽筵より人を招く文

謹啓爾来御疎遠打過多罪奉謝候陳者愚又儀  
 本辛者七旬之高齡ニ達し候に付明後何日誕  
 辰に有之候間親戚知己之人々を招き壽歌小

- 雄毛 ○織毫
- 銚鐘 ○徒鬼
- 氣毛 ○羊毫
- 墨
- 龍香 ○松花
- 寒燻 ○紫雲
- 師猿 ○烟水
- 睦花 ○玄香
- 松膜 ○松煙
- 油龍 ○松心
- 麝松 ○彩花
- 泥陳 ○芳墨

集を催し旁何之風情も無之候得共聊祝宴相  
 開き候間貴君の高詠も相願度れに付萬障御  
 繰合同日午後二時より是非御奮臨之程恭待  
 候勿々敬具

○同 答

尊書拜見陳者本年は御尊又吉稀之高齡も涉  
 らせられ候も付壽筵御開きに相成南山壽し  
 奉り候就ては壽歌小集御催之趣きにて小生  
 に御招きを蒙り忝奉謝候仰も隨ひ御指示

- 仙芝 ○蘭芝
- 紙
- 牋紙 ○天樹
- 方潔 ○藤角
- 潔縹 ○楮児
- 縹紙 ○素雲
- 白麻 ○雲牋
- 玉枝 ○雲牋
- 扇
- 團扇 ○白羽
- 輕紙 ○孔雀
- 輕紙 ○雪夜

の時刻昇堂祝賀可申上候早々拜復

○病氣見舞の文

雨未御不音の段御看免被下度候扱承り候得  
 は貴君此程御病臥の由御容体如何に候哉悪  
 疫流行の折柄なれば随分御療養專一に奉存  
 候生義早速御見舞昇堂可仕の處職勢上繁忙  
 故乍失敬使を以て御尋申上候此品乍鹿末御  
 見舞の印迄呈上仕候何れ不日拜趨尚可相伺  
 候叩頭



- 雉尾 ○鶴尾
- 蜂娥 ○純素
- 蟬娥 ○雪夜
- 鏡
- 碧銅 ○紫班
- 鸞影 ○百鍊
- 壽光 ○菱花
- 鳳翼
- 琴
- 雲和 ○尾尾
- 桐孫 ○桐君
- 響環 ○響泉

○同 答

野生病氣御存同より預り候上美事の品澤山御  
 惠與被下御深切の段奉感謝候昨今は大に快  
 癒に趣候間御放念被下度候略答不次

○死を吊ふ文

御老母様豫てより御病氣の處醫薬其効なく  
 昨夜御逝去被成候趣驚愕仕候御全家嗟を御  
 愁傷の由事と奉深察候鹿香一函御霊前に御  
 供へ申候不具

- 月異名
- 一月
- 端月 ○睦月
- 阪月 ○太陰
- 登辛 ○孟春
- 初空月
- 二月
- 如月 ○四陽
- 仲春 ○夾鍾
- 夜更着 ○梅見月
- 三月

○法會に人を招く文

明後幾日は亡父満中院に付何の改も無之候  
 得共聊か法會執行仕候間今日午前十時より  
 御来臨被下度奉待候也

○開店を賀する文

陳者今般何々商業御開舗の由御奮發之段實  
 に奉感佩候御商品も時勢に適し場所柄も極  
 めて繁花なれば将来必も御繁榮の事と奉慶  
 察候因て鯉魚一臺聊御祝の印送し進呈致し

御笑納被下候得者幸甚

○同 答

- 彌生 ○櫻月
- 春巻 ○香巻
- 宿月 ○活鏡
- 四月
- 余月 ○卯月
- 初夏 ○夜鏡
- 仲呂
- 五月
- 皋月 ○仲暑
- 早月
- 六月
- 且月 ○末夏

華簡拜見仕候陳者弊屋何々商開肆下付御祝  
 として何寄の佳品は惠投被下千万有難拜受  
 仕候閑居とは中ながら實小居をたる一小肆  
 にして耻入候得共何率幾久しく後引立の程  
 奉願候就てけ来る何日閑居祝の印として小  
 宴相催候間貴兄御繁忙中恐入候得共午後何  
 時より御来臨の程奉待候早々拜具

- 東伏 ○林鐘
- 水無月
- 風待月
- 七月
- 相月 ○上秋
- 親月 ○文月
- 夷則
- 八月
- 壯月 ○葉月
- 南呂 ○正秋
- 橘春
- 九月

○商品見本遞送を乞ふ文

貴店益御盛大奉賀候陳者昨日何新聞へ廣告  
 被為候何品當地方へは是極適當の物と存候  
 に付見本數種取交せは遞送被下度精々賣弘  
 め中度候尚見本拜見の上進を御注文申上へ  
 く候先は不取敢狀段申入候也又々

○同 答

尊翰辱拜見仕候弊店專賣の何品御地へ賣弘  
 被下候由にて見本遞送の義拜承仕候乃ち幾

- 玄月○長月
- 菊月○際秋
- 七射○藏商
- 紅葉月
- 十月
- 陽月○初冬
- 霜鐘○小春
- 神無月
- 時雨月
- 十一月
- 仲冬○周正
- 黄鐘○霜月

種通運便を以て差上候間貴着御落手被下度  
尚御盡力の程奉願上候叟々拜啓

○為換金を送る文

此程注文敷候何々代金何百圓別紙何銀行の  
為換券を以て郵送仕候間御落手の上御回報  
被下度候早々不備

○同 答

貴着拜讀仕候陳ば何々代金として金何百圓  
御送被下正々落手仕候乃ち別紙受取澄差上

- 十二月
- 太呂○除月
- 四極○臘月
- 殘冬○究陰
- 師走
- 日異名
- 元旦
- 元旦○鶏旦
- 更始○履端
- 三月三日
- 上巳○重三
- 五月五日

候尚御注文仰せ附られ度願上候先は御禮送  
早々再拜

○貸金権便の文

拜啓豫て御用立申置候金最早去月末より期  
限相切れ候處今以て御返濟無之如何の御都  
合に候哉斯く延引相成候ては甚遺憾々付又  
左様入用の節は御用立申べく候間一先御返  
濟被下度候也

○歸朝を報ずる文

- 端午たんご○重五ちゅうご
- 懺のり祝はらひ○端陽たんよう
- 七月七日
- 星會せいぐわい○七夕たなばた
- 漢かん女にょ○傳つた節せつ
- 九月九日
- 重陽ちゆうよう○重九ちゆうきゅう
- 十月一日
- 開爐かいろ○拜冬はいとう
- 大晦日おほみそか
- 除夜じゆや○臘ろう畢ひつ
- 歲終さいしゅう○除じゆ夕せき

拜はい啓けい陳ちんげげ賤せん生せい義ぎ一いつ昨ちゆう年ねん來らい米まい國こくにに留りゅう學がく羅ら在ざい候こう  
 處そこ某たいてい大だい學がく卒そつ業ぎょう致し米まい船せん某たいてい号ごうにに昨ちゆう日じつ歸き朝てう仕し  
 候こう不ふ在ざい中ちゆうはは家か事じ何なに彼かとと御ご添そん心しんにに預よりり奉ほう謝しゃ候こう  
 不ふ日じつ參さん館くわん禮らい中ちゆう上じやうへへ候こうへへ共とも不ふ取と敢げん以い愚ぐ札さつ  
 御ご報ほう知ち申まを上じやう候こう以い品ひん被ひ地ぢ名な産さんにに付つ御ご覽らん小せう入にゅう候こう  
 早さう々々不ふ具ぐ

明治三十九年四月一日印刷  
 明治三十九年四月十日發行



編輯者兼 荒川龜次郎  
 東京市日本橋區馬喰町三丁目五番地

印刷者 田附平次郎  
 東京市淺草區左衛門町一番地

印刷所 今泉堂印刷所  
 東京市淺草區左衛門町一番地

發行所 馬喰町三ノ五 山口屋書店

